

## 妙法蓮華經法師品第十（後半）

（法を伝える者達）

（207 頁 1 行～212 頁 11 行）

爾の時に仏、復葉王菩薩摩訶薩に告げたまわく、我が所説の經典、無量千万億にして、已に説き、今説き當に説かん。而も其の中に於て此の法華經、最も為れ難信難解なり。

葉王此の經は是れ諸仏の秘要の藏なり。分布して妄りに人に授与すべからず。諸仏世尊の守護したもう所なり。昔より已來未だ曾て顯説せず。而も此の經は如来の現在すら猶お怨嫉多し、況んや滅度の後をや。

葉王、當に知るべし、如来の滅後に其れ能く書持し読誦し供養し、他人の為に説かん者は、如来則ち衣を以て之を覆いたもうべし。又他方の現在の諸仏に護念せらるることを為ん。是の人は大信力及び志願力・諸善根力あらん。當に知るべし、是の人は如来と共に宿するなり。則ち如来の手をもって其の頭を摩でたもうを為ん。

（207 頁 1 行～207 頁 10 行）

その時に仏は、葉王菩薩大士にお告げになりました。

私が説く經典の数は無量千万億であり、過去において説き、今も説き、未来においても説くでしょう。しかるに、その中に於いても、この法華經は最も信じ難く理解し難いものです。

葉王よ、この經は、諸仏がめつたに説かれることなく大切に秘藏されているもので、広く配布したり妄りに与えたりしてはならず、諸仏が大切に守り護持されてこられたものです。昔から今まで、未だかつて顕わに説かれたことはありません。しかも、この經は、如来がご在世の時でも猶も怨みや妬みが持つものが多いのに、如来がこの世を去られた後においては尚更なのです。

葉王よ、必ず知っておくべきです。如来がこの世を去った後に、この經を能く書写して教えを銘記して忘れず、読誦し、感謝して恩に報いる行いをし、他人の為に説こうとする者は、如来が衣によって被って下さるでしょう。また、他の世界にご在世の諸仏に、護って気にかけて頂けるでしょう。この人には、大いなる信仰心と志願する力と様々な善い行いを成し遂げる力があるでしょう。必ず知るべきです。この人は如来と共に在り、如来の手によってその頭を撫でて頂けることを。

葉王、在々処々に若しは説き若しは読み若しは誦し若しは書き若しは經卷所住の処には、皆七宝の塔を起て、極めて高広嚴飾ならしむべし。復舍利を安ずることを須いず。所以は何ん、此の中には已に如来の全身います。此の塔をば一切の華・香・瓔珞・繪蓋・幢旛・伎樂・歌頌を以て、供養・恭敬・尊重・讚歎したてまつるべし。若し人あつて此の塔を見たてまつることを得て礼拝し供養せん。當に知るべし、是等は皆阿耨多羅三藐三菩提に近づきぬ。

葉王、多く人あつて在家・出家の菩薩の道を行ぜんに、若し此の法華經を見聞し読誦し書

持し供養すること得ること能わずんば、当に知るべし、是の人は未だ善く菩薩の道を行ぜざるなり。若し是の經典を聞くこと得ることあらん者は、乃ち能善菩薩の道を行ずるなり。其れ衆生の仏道を求むる者あって、是の法華經を若しは見、若しは聞き、聞き已って信解し受持せば、当に知るべし、是の人は阿耨多羅三藐三菩提に近づくことを得たり。

(207 頁 10 行～208 頁 10 行)

薬王よ、いかなる所であっても、この經が説かれるところや、読まれるところや、読誦されるところや、書写されるところや、經卷が置かれているところには、皆七宝の塔を建てて、きわめて高く、広く、莊嚴に飾るべきです。そこには仏の遺骨を置く必要はありません。理由は何故かという、この經卷の中には既に如来の全身があるからです。この塔を、あらゆる華や、香や、珠玉を連ねた飾りや、天蓋や、竿柱に長い帛を垂れ下げた旗や、妓樂や、歌曲によって供養し、恭しく敬い、尊重し、讚嘆し奉るべきです。もしも、ある人がこの塔を見たとまつことができ、礼拝し、供養するならば、必ず知るべきです。これらの人々は皆、阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）に近づいていることを。

薬王よ、多くの人々が在家や出家の菩薩道を行じている時に、もしこの法華經を見たり、聞いたり、読誦したり、書写して教えを銘記して忘れなかつたり、感謝して恩に報いる行いをする事が出来ないならば、必ず知るべきです。これらの人は、未だ善く菩薩行を行じてはいないのだと。もしも、この經典を聞く事を得た者は、その者こそ、能く菩薩行を行じているのです。衆生で仏道を求める者がいて、この法華經を見たり聞いたり、聞き終って信じて理解し、教えを受け入れて銘記して忘れないならば、必ず知るべきです。この人は阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）に近づく事ができたのだと。

薬王、譬えば人あって渴乏して水を須いんとして、彼の高原に於て穿鑿して之を求むるに、猶お乾ける土を見ては水尚お遠しと知る。功を施すこと已まずして、転た湿える土を見、遂に漸く泥に至りぬれば、其の心決定して水必ず近しと知らんが故く、菩薩も亦復是の如し。

若し是の法華經を未だ聞かず、未だ解せず、未だ修習すること能わずんば、当に知るべし、是の人は阿耨多羅三藐三菩提を去ること尚お遠し。

若し聞解し思惟し修習することを得ば、必ず阿耨多羅三藐三菩提に近づくことを得たりと知れ。所以は何ん、一切の菩薩の阿耨多羅三藐三菩提は皆此の經に属せり。

此の經は方便の門を開いて眞実の相を示す。是の法華經の藏は深固幽遠にして人の能く到るなし。今仏、菩薩を教化し成就して為に開示す。

(208 頁 10 行～209 頁 7 行)

薬王よ、例えば、ある人がのどが乾いて水を飲もうとして、とある高原に穴を掘り水を求めているとき、まだ乾いた土が出て来るのを見れば、水はまだ遠いと知る。工事を止めないで、湿った土が出て来るのを見て、ついに泥が出るようになれば、その心は確信して、水は近いと知るように、菩薩もまたこれと同じようなのです。

もしも、この法華經を未だ聞いたことなく、未だ理解せず、未だ習い修めることができな

いならば、必ず知るべきです。この人は阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）の境地から離れてなお遠いと。

もしも、この法華經を聞き、悟り、心に浮かべてよく考え、修習する事ができたら、この人は阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）に近づく事ができたのだと知るがよい。理由は何故かという、全ての菩薩の阿耨多羅三藐三菩提（他者と共有できる最高の仏の悟りの境地）、皆この經にあるからです。

この經は、相手に合わせた巧みな手段や教えを示して、人を真実の悟りへ到達させるのです。今、仏は菩薩を教化し成就させるために、これを説き明かします。

薬王、若し菩薩あって是の法華經を聞いて驚疑し怖畏せん。当に知るべし、是れを新発意の菩薩と為づく。若し声聞の人、是の經を聞いて驚疑し怖畏せん。当に知るべし、是れを増上慢の者となづく。

薬王、若し善男子・善女人あって、如来の滅後に四衆の為に是の法華經を説かんと欲せば、云何してか説くべき。是の善男子・善女人は、如来の室に入り、如来の衣を著、如来の座に坐して、爾して乃し四衆の為に広く斯の經を説くべし。如来の室とは一切衆生の中の大慈悲心是れなり。如来の衣とは柔和忍辱の心是れなり。如来の座とは一切法空是れなり。是の中に安住して、然して後に不懈怠の心を以て、諸の菩薩及び四衆の為に、広く是の法華經を説くべし。(209 頁 7 行～210 頁 4 行)

薬王よ、もし菩薩がいて、この法華經を聞いて、驚き疑い、怖れ慄くならば、必ず知るべきである、そのような者は、まだ菩提心を起こしたばかりの初心者の菩薩であると。

もしも、声聞（阿羅漢の悟りを求める者）で、この經を聞いて、驚き疑い、怖れ慄くならば、必ず知るべきです。これは未だ悟っていないのに悟っていると勘違いしている者であると。

薬王よ、もし善き志を持つ男女が、如来が世を去られたのちに、出家の男女と在家の男女の為に、この法華經を説こうと欲するときは、どのように説くべきでしょうか。この善き志を持つ男女は、如来の室に入り、如来の衣を着、如来の座に坐って、その上で出家の男女と在家の男女の為に、広くこの經を説くべきです。如来の室とは、他者を救済しようとする広大な慈悲の心を持って衆生と向き合うことです。如来の衣とは穏やかで純真な心で何事も気にしない心を保つことです。如来の座とは、あらゆるものは因と縁が複雑に絡み合って現象しており、それ自体の独立した固定的な本質や自性はないという事実を悟る事です。このような心持ちで、しかるのちに怠け心をおこすことなく、諸々の菩薩や出家・在家の男女の為に、広くこの法華經を説くべきなのです。

薬王、我余国に於て、化人を遣わして其れが為に聴法の衆を集め、亦化の比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷を遣わして其の説法を聴かしめん。是の諸の化人、法を聞いて信受し隨順して逆わじ。若し説法者空閑の処に在らば、我時に広く天・龍・鬼神・乾闥婆・阿修羅等を遣わして、其の説法を聴かしめん。我異国に在りと雖も、時々説法者をして我が身を見ることを得せしめん。若し此の經に於て句逗を忘失せば、我還つて為に説いて具足することを得

せしめん。(210 頁 4 行～210 頁 10 行)

薬王よ、私は他の国土に居ても、神通力で作った人を遣わして、その（法を説く人の）ために教えを聞く人々を集め、また、神通力で作った出家の男女や在家の男女を遣わして、その説法を聴かせるでしょう。この諸々の神通力で作った人々は、教えを聞いて信じ受け入れ、随順して逆らわないでしょう。もしも、教えを説く者が、人里から離れた静かで修行に適した場所にいるならば、私はその時には広く天人・龍・鬼神・ガンダルヴァ・アシュラたちを遣わして、その説法を聴かせるでしょう。私が他の国土に居たとしても、必要な時々教えを説く者が、私の姿を見る事が出来る様にするでしょう。もしも、（法を説く者が）この経の字句を忘れる様な事があったならば、私は直ぐにその者の傍に寄り添い、完全に思い出せるようにするでしょう。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく

諸の懈怠を捨てんと欲せば 当に此の経を聴くべし 是の経は聞くことを得難し  
信受する者亦難し 人の渴して水を須いんとして 高原を穿鑿するに 猶お乾燥ける  
土を見ては 水を去ること尚お遠しと知る 漸く湿える土泥を見ては 決定して水に  
近づきぬと知らんが如し 薬王汝当に知るべし 是の如き諸人等 法華経を聞かざん  
ば 仏智を去ること甚だ遠し 若し是の深経の 声聞の法を決了して 是れ諸経の王  
なるを聞き 聞き已って諦かに思惟せん 当に知るべし此の人等は 仏の智慧に近づ  
きぬ 若し人此の経を説かば 如来の室に入り 如来の衣を著 而も如来の座に坐し  
て 衆に処して畏る所なく 広く為に分別し説くべし 大慈悲を室とし 柔和忍辱  
を衣とし 諸法の空を座とす 此れに処して為に法を説け 若し此の経を説かん時  
人あって悪口し罵り 刀杖 瓦石を加うとも 仏を念ずるが故に忍ぶべし 我千万億  
の土に 浄堅固の身を現じて 無量億劫に於て 衆生の為に法を説く 若し我滅度の  
後に 能く此の経を説かん者には 我化の四衆 比丘 比丘尼 及び清信士女を遣わ  
して 法師を供養せしめ 諸の衆生を引導して 之を集めて法を聴かしめん 若し人  
悪 刀杖及び瓦石を加えんと欲せば 則ち変化の人を遣わして 之が為に衛護と作さん  
若し説法の人 独空閑の処に在って 寂寞として人の声なからんに此の經典を讀  
誦せば 我爾の時に為に 清浄光明の身を現ぜん 若し章句を忘失せば 為に説いて  
通利せしめん 若し人是の徳を具して 或は四衆の為に説き 空処にして経を讀誦せ  
ば 皆我が身を見ることを得ん 若し人空閑にあらば 我天 龍王 夜叉 鬼神等を  
遣わして 為に聴法の衆となさん 是の人法を樂説し 分別して罣礙なからん 諸仏  
護念したもうが故に 能く大衆をして喜ばしめん 若し法師に親近せば 速かに菩薩  
の道を得 是の師に随順して学せば 恒沙の仏を見たてまつることを得ん

(210 頁 10 行～212 頁 11 行)

その時に世尊は、重ねてこの意義を述べようとして、詩を説いて次のように言われました。

諸々の怠け心を克服したいと欲する者は 必ずこの経を聴くべきです この経は聞

く機会を得ることも困難であり 信じて受け入れる者はまた得がたい ある人が喉が乾き水をほしがって 高原に穴を掘ったとして なお乾いた土を見たならば まだまだ水は遥かに遠いと知るでしょう ようやく湿った土を見たら 確信して水は近いと知るように 薬王よ正に知るべきです このような人々は 法華経を聞かないならば 仏の知恵から遠ざかっていて非常に遠いと もしも人々が この深遠なる教えが 声聞の教えを正し 諸経の王であると聞き 聞き終わって心静かにその教えに思いを致すならば 正に知るべきです これらの人々は 仏の知恵に近づいているのだと もしも 人々が経を説く時は 必ず如来の室に入り 如来の衣を着て しかも如来の座に座って どれだけ多くの聴衆にも畏れることなく 多くの人々の為にそれぞれの心に届く言葉で教えを説くべきです 大いなる慈悲の如来の室で 柔和で何事も気にしない心の如来の衣を着 全ては因と縁による表れであって固有不変の実体などないという空のものの見方を如来の座とし そのような心構えを以って 人々の為に教えを説きなさい もしこの経を説くときに ある人が悪口を言い罵り 刀や杖や瓦や石を投げても 心に仏を念じてに耐え忍ぶでしょう 私は千万億の国土に 清らかで堅固な身を現わして 無量億劫という長い時間において 生きとし生けるもののために教えを説きます もしも私が世を去った後に よくこの経を説く者には 私は神通力で化作した 出家の男女と在家の男女を遣わして 仏に代わって法を説く者を供養させ 諸々の生きとし生けるもの達を導いて 彼らを集めて教えを聞かせるようにしよう もしもある人が悪意を以って 刀や杖および瓦や石を投げつけようとすれば すぐに仏の化身を遣わして その人の為に付き添い守らせるでしょう もし説法する人が一人で人里離れた静かで修行に適した場所において 静まりかえって人の声もしない時に この経典を読誦するならば 私はその時の為に 清浄で光り輝く体を出現させましょう もしも章や句を忘れたならば 私は思い出させて全て暗唱できるように説いて聞かせるでしょう もしも徳の有る人々が 出家の男女や在家の男女の為に教えを説き 人里離れた静かで修行に適した場所で この経を読誦するならば 皆私の姿を見ることができるようでしょう もしも人々が人里離れた静かで修行に適した場所にいるならば 私は天の神々や龍王や夜叉や鬼神たちを 彼らの説法の聴衆として遣わすでしょう 彼らは教えを説くことを楽しみ 人々に応じて法の説くのに不自由はありません 多くの仏達が(彼らを)心にかけて護り念じているため (彼らは)多くの人々に大いなる歓びを与えることができますのです もしもこのような仏に代わって法を説く者に親しく近づけば 速やかに菩薩の道を進むことができ このような師に随順して学べば ガンジス川の砂の数ほどの数多くの仏を見奉ることができるでしょう